

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成21年6月18日(2009.6.18)

【公表番号】特表2008-541928(P2008-541928A)

【公表日】平成20年11月27日(2008.11.27)

【年通号数】公開・登録公報2008-047

【出願番号】特願2008-514583(P2008-514583)

【国際特許分類】

A 6 1 B 17/16 (2006.01)

A 6 1 C 8/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/16

A 6 1 C 8/00 Z

【手続補正書】

【提出日】平成21年4月21日(2009.4.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

口内に配向されたドリルテンプレート（1）上で使用され、テンプレートから頬骨（4）中に延びることを意図された穴（19, 20）を形成するための装置であって、このテンプレートが頬骨に向かう方向を規定する一つまたはそれより多い案内套管（2, 3）を含むものにおいて、穴方向を決定する一つまたはそれより多い円筒状延長ユニット（5, 6）がそれぞれの案内套管内に適用されることができ、一つまたはそれより多い第一直径を持つ一つまたはそれより多い第一ドリルが、それぞれの延長ユニットによってそれぞれの第一直径を持つ導入穴範囲（19）を形成するために前記方向の顎骨及び／または頬骨に向けられることができ、一つまたはそれより多い第二直径を持つ一つまたはそれより多い第二ドリル（9, 10）のための一つまたはそれより多いドリル案内ユニット（11-15）が導入穴範囲（19）の底（18）に向けて挿入されることができ、ことを特徴とする装置。

【請求項 2】

第一円筒状延長ユニット（5, 6）の数が二つであり、かつ異なるタイプ及び／または異なる直径を持つ第一ドリルを案内するための縦方向中心穴を持つことを特徴とする請求項 1 に記載の装置。

【請求項 3】

一つの延長ユニットが第二ユニット以前の適用及び使用のために意図されていることを特徴とする請求項 1 に記載の装置。

【請求項 4】

ドリル案内ユニット（11-15）が円筒状部を持って配置され、この円筒状部が案内套管内及び／またはそれぞれの延長ユニット内に適用されることができ、かつそれぞれの案内套管及び／または延長ユニットの内径に相当する外径を持って配置されていることを特徴とする請求項 1, 2 または 3 に記載の装置。

【請求項 5】

ドリル案内ユニット（11-15）がそれらを取扱うことができるハンドル部を持って配置されていることを特徴とする請求項 1 から 4 のいずれかに記載の装置。

【請求項 6】

第一ドリル案内ユニット（13-15）が、それら自身が案内套管内に支持されるのと同じ方法で第二ドリル案内ユニット（11-12）を支持するように配置されていることを特徴とする請求項 1 から 5 のいずれかに記載の装置。

【請求項 7】

第二ドリル案内ユニット（11-12）が 2.9 mm 及び 3.5 mm のドリルのための縦方向に延びる内部中心穴を持つことを特徴とする請求項 6 に記載の装置。

【請求項 8】

第一の第一円筒状ユニットがそれぞれの案内套管内に適用されることができ、及び第二の第一円筒状ユニットが第一の第一円筒状ユニットの中心穴内に適用されることができ、ことを特徴とする請求項 1 から 7 のいずれかに記載の装置。

【請求項 9】

二つの第一円筒状ユニットが案内套管の中心凹所内に交互に適用されるように配置されていることを特徴とする請求項 1 から 7 のいずれかに記載の装置。

【請求項 10】

ドリルテンプレートの案内套管の数が四つであり、それらが対で頬骨の中実部の両側に向けられていることを特徴とする請求項 1 から 9 のいずれかに記載の装置。